

学ぶ・語る・出会う

社会人ボランティアの声

柳 徳宏さん

受講科目

・名著購読 「世界の見方—文学作品や科学随筆を読む—」

—なぜこの授業を選ばれたのですか？

A.もともと本を読むことは好きなのですが、今までは仕事のためとか、仕事の延長線上で本を読むことが多かったので、本を読むことの原点に立ち返ってもう一度読んでみたいと思ったからです。それに、先生の選ばれた本のジャンルがどれも素晴らしくて・・・非常にうれしく思っていますし、さすがだなあって感心しています。

—実際に授業を受けられての印象は・・・

A.授業で、赤・青・緑の三色のボールペンを使うんですね。緑は自分なるほど思ったところやいいなと思ったところを、青はテーマに関わるような大切な部分を、赤はさらに重要な部分に線を引くんです。そうやって線を引いてみると、自分は赤の部分が多いんです。それは、赤を探すような読み方を今までしてきたってことなのかもしれません。つまり、結果や成果を探すような・・・仕事を通じて読んできた本では常にそうだったんですね。緑の線を引くように、自分の感性に向き合ってじっくりと本に向き合うことをしてなかったのかもしれないなあと思いました。

—学生と一緒に同じ教材を読むという体験はどうですか？

A.新鮮な感性に触れることができます。自分はどうしても経験知から読んでしまうんですね。学生さんの意見を聞くと、ああ、そういうふう感じてるのか・・・と発見があります。例え同じ個所に線を引いていても、自分とは違う視点からものを見ていることに気づくこともあります。そういう自分にはない感覚に出会えることはとても楽しいことです。

—社会人が授業に参加することはどんな意味があると思われますか？

A.私は特に学生さんに何かを伝えられるようなものも持っていませんし、その手段も持ち合わせていません。自分が経験してきたことを一つの例えとしてお話できるだけです。だからこそ、自分の経験を絶対的なもののように話してしまわないよう、気をつけています。人生はみな違うから、やってみなくてはわからないことの連続。私の経験が必ずしもいいアドバイスとして学生さんに届くとは限らないでしょう。

ただ、今、学ぶことがとても楽しいんです。もう様々なことも終えてきた今になって、本当に学ぶことの意味がわかったんだと思います。それは自分のために学ぶということです。人の為ではなく、自分のために学ぶ楽しみ。これは本当に素晴らしいものです。そんな姿を学生さんに見ていただければ・・・という気持ちです。

—う～ん・・・自分のために学ぶ楽しみ・・・学びは人の為ならず!?

でも、実際、学生は忙しく単位を取ることを第一の目当てにしてしまう状況もあって・・・

A.それは私もそうでした（笑）学生の時は、ちょっとでもラクしたかったですよ！だから、社会人になって、あの時もっと勉強しとけば良かった！ってどれだけ思ったことか・・・（笑）

—確かに私も何度そう思ったことか！（笑）だけど、それは成果につながることを期待される学びですね。今、柳さんが体感されている学びは、就職や成果のための学びではありませんね・・・

A.そうですね。これは本当に素晴らしい学びです。人生において、いくつになっても学びは終わらないんですね。そしてその学びはたくさんの人との縁があって成り立っているものでもあると思います。

—柳さんが今、大学で学ぶことの意味は？

A.まさにものの見方を知ることなんだと思います。その手段として本は本当に素晴らしい。本を通してものの見方を知り、世界の見方を知ることができる。その機会を学生さんというたくさんのやわらかい感性と共に得られていることを、心からうれしく思っています。

—学生に何かメッセージを送るとしたら・・・

A.私は自分の経験から感じたことがあるんです。運のいい人、ひらめきのいい人がいる。こういう人たちにはどうやってもかなわないところがある。それは生まれつき備わっているものだろうからね。でもね、努力するという道があると思う。今はいろんなことが厳しい時代だし、難しい問題にもぶつかるだろうけど、努力するという道は残されているんじゃないかなって思いますね。

笑顔を絶やすことなく、常に控え目に振る舞われる柳さんです。でも、自分のために学ぶことの喜びを語られるその姿は、非常にエネルギーに満ちていて、お話を伺っている私までその喜びのおすそ分けをいただいた気持ちになりました。きっと学生にも伝わっていくのだろうなあ・・・

柳さん、ありがとうございます。

5月7日（木） 学生支援室にて